

令和7年度 自己評価および学校関係者評価書

1 本年度の重点教育目標

函館市立深堀小学校

志 抱く子

2 本年度の取組の重点

- ① 児童の主体性を伸長するための目標構築のルーティンの確立
- ② 児童の主体性を伸長するための振り返りのルーティンの確立
- ③ 児童の主体性を伸長するための授業の改善・充実
- ④ 「状態目標」をイメージさせるための取り組みの充実
- ⑤ 地域を見つめ、感謝し、共に取り組もうとする意識を育む活動の充実

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成状況	理由 改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価	主な意見（改善策など）
① 目標構築のルーティンの確立	1 単位時間の授業で「めあて」を明らかにして取り組む。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・板書の最初に「めあて」を提示する習慣が定着し、児童が見通しをもって学習に臨んでいる。 ・児童自身が「めあて」を考えられるような6年間を見越した授業づくりを推進する。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・いつもの学年もしっかりと行っている印象があり、自己評価の通りだと思います。
	1 年後～数年後の状態目標をつくり、意識する。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアパスポート等を活用し作成できているが、日常的な意識に至るために再確認できる環境づくりを推進する。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアパスポートの実際の使われ方を説明してほしい。
② 振り返りのルーティンの確立	1 単位時間の授業で自らをきちんと振り返る。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・授業終盤の時間確保が難しい場合に、不十分になることがある。授業後に行う振り返りタイムを確保する等の工夫を行っていく。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りタイムありきで進んでしまう方向になりそうです。方策ではなく対策になっている気がします。 ・学校の評価はAでよいのではと思います。授業の中やタブレットを使い取り組んでいる印象があります。
	月末や学期末、年度末などに自らを振り返る。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学期末、行事後等の定期的な振り返りにより、自己の成長を実感できている。 	A	A	
③ 授業の改善・充実	単元の中で、思考場面において、学習用語等を用いて考える。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・既習のキーワードを活用して論理的に説明しようとする姿勢がみられる。 ・授業者自身が理想とする授業を明確にすることを目指す。 	A	A	
	結果目標や行動目標について適切に設定する。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・目標が具体的な行動に結びつかない児童がいる。学年に応じ、具体的な目標設定の手法を指導する。 	A	A	
④ 「状態目標」をイメージさせるための取り組みの充実	単元の中で、協働場面において他者の意見を聴く。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ学習やペアワークが活発に行われ、相手の意見を尊重して聞く姿勢が育っている。 ・端末を活用した協働的な学習を推進する。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観等でそのような様子が見られていると感じています。
	他者の「目標のあり方」について参考にする。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・良いモデルを模倣できる機運を高め、自己の目標の妥当性を考えさせる場を設定する。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・他者を認め、話し合いの大切さを認識する力を蓄える。
⑤ 地域を見つめ、感謝し、共に取り組もうとする意識を育む活動の充実	近隣校（深堀中学校、駒場小学校、聾学校）との協働学習の充実	A	<ul style="list-style-type: none"> ・深堀中、駒場小、聾学校との交流を通じ、多様な視点やコミュニケーション能力を養う機会を継続できている。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・恵まれた環境を生かしていると思うのでさらに継続を。 ・学校としてとても丁寧に積極的に取り組んでおり、各学年の先生方にも十分展開されていると思います。
	地域交流の充実（クラブ活動、港おどり、下校指導、樹木学習、町たんけん、ラジオ体操等）	A	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事や人材を積極的に活用し、郷土愛を育む活動が展開できている。 ・カリキュラムの改善により、より効果的な学習ができるよう工夫していく。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・クラブ活動など協力できる場を通し、高齢者にとっても学びの場となっている。 ・子供達は他者から褒められたりする機会が減っているので、地域交流で感謝されたり喜んでもらったりすると、すごくうれしそうにしているので、これからもよろしく願います。あと、習い事やヤングケアラーや帰宅すると自分の時間が自由にならない児童もいるかもしれないので時間・曜日など可能な範囲で調整していただければ幸いです。 ・地域の町会をはじめ関係機関からの信頼が大きく高まっていると強く感じます。今年度の様々な活動はコロナ禍で停滞した活動や地域の方々の心を動かさずきっかけとなったと思います。地域の方々との関わりで子ども達が学校以外の場面であいさつをしたり、会話をしたりする場面も多く見られるようになったと感じています。このような取り組みにつなげるため校長先生、教頭先生が多々なるご尽力をくださいましたことに心より感謝いたします。

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた（8割以上）
b	概ね達成できた（6割以上）
c	十分ではない（4割以上）
d	達成できなかった（4割未満）

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。